

令和4年度事業報告

日本では、令和2年11月から始まった新型コロナウイルスの感染は、令和5年3月には収束に向かっていますが、ウクライナ紛争に伴う食料品や燃料の高騰は継続しており、国民の生活に大きな負担となっています。

このような状況の中、本会では、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域福祉の中心的な役割と使命を認識しながら各事業を推進してまいりました。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、収入が減少した世帯については、生活福祉資金の貸し付けやフードバンクでの食料提供を行ない、生活が維持できるように支援しました。償還が始まっている世帯については、生活状況を確認しながら、計画どおり償還できるように指導しました。

令和2年度に策定した「第3期新庄市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画」については、検討委員会や推進委員会を開催し、取り組み状況の確認や評価、見直しを行ないました。

ボランティア推進事業では、昨年8月に置賜地方で豪雨災害に見舞われた川西町に職員を派遣し、県社協や他市町村社協と連携を図り、災害ボランティアセンターの運営を支援しました。また、市福祉バスを活用して川西町に災害ボランティアの派遣も行ないました。

放課後児童クラブについては、4カ所の放課後児童クラブに1名ずつ常勤職員を増員し、子どもたちが安心して生活できるよう組織体制を強化しましたが、年休対応職員が不足しているため、事務局職員やシルバー人材センター会員で業務を補助しました。また、特別な支援が必要な児童が増えていることから、職員の資質向上のために研修会を実施しました。

もみの木介護支援事業所では、介護を必要としている方やその家族の相談に応じ、身体状況に応じて最適な介護サービスが受けられるように、要介護認定のための調査、ケアプランの作成、各介護保険サービス事業者との連絡調整等を行ないました。

もみの木訪問介護事業所では、高齢者や障がい児者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるように、掃除や調理等の生活援助や排泄、入浴等の身体介護を実施しました。昨年同様、介護員の人材不足が大きな課題となっており、訪問介護員については、時給制臨時職員の雇用年齢を70歳から75歳まで延長し、体制の見直しを行ないました。

また、福祉有償運送サービス事業については、利用者が増えており、事務局と連携し事業の充実を図ることができました。

地域包括支援センターでは、高齢者等に関するあらゆる相談を受け止め、課題解決に向けた助言や適切なサービスに繋げる支援を行ないました。複合的な課題を抱えた支援困難事例に対しては、行政や医療機関、民生委員等と随時協議しながら専門的な支援を実施しました。各関係機関との連絡会議や研修会を通して顔の見える関係づくりを常に意識して取り組んでいるため、相談支援時の連携が円滑に図られています。コロナ禍ではありましたが、例年通り地域ケア会議や研修会、新たな通いの場の取り組みとしてのオレンジ市場（体操、認知症カフェ、障がい者物品販売）を開催することができました。

最後になりましたが、新庄市民文化会館を会場として行われた「第72回山形県民福祉大会」をはじめ、各種事業にご支援ご協力をいただきました関係各位に感謝申し上げます。令和4年度主要事業につきまして、次のとおりご報告いたします。

【法人・地域福祉事業】

1. 役員会等運営事業

(1) 理事会の開催

◇第1回理事会	令和4年 6月 6日 (月)	出席理事 12名 出席監事 2名
◇第2回理事会	令和5年 3月20日 (月)	出席理事 12名 出席監事 2名

(2) 評議員会の開催

◇第1回評議員会	令和4年 6月27日 (月)	出席評議員 23名 出席監事 2名
◇第2回評議員会	令和5年 3月29日 (水)	出席評議員 21名

(3) 監査の開催

◇第1回監査	令和4年 5月20日 (金)	出席監事 2名 (令和3年度分)
◇第2回監査	令和4年 11月28日 (月)	出席監事 2名

(4) 委員会の開催

◇評議員選任・解任委員会	令和4年 6月10日 (金) 令和5年 3月24日 (金)	出席委員 5名 書面による決議
◇老人福祉センター運営委員会	令和4年 8月 1日 (月)	出席委員 9名
◇歳末たすけあい配分委員会	令和4年 12月 7日 (水)	出席委員 8名
◇新庄市善意銀行運営委員会	令和4年 12月 7日 (水)	出席委員 8名
◇会長表彰選考委員会	令和5年 2月15日 (水)	出席委員 4名

(5) その他

◇会計訪問指導	令和4年 5月13日 (金) 令和4年 9月29日 (木) 令和5年 1月20日 (金)	高山税理士 高山税理士 高山税理士
◇市監査	令和4年 9月 8日 (木)	
◇社会福祉法人監査	令和4年 9月22日 (木)	
◇介護支援事業所運営指導	令和4年 7月27日 (水)	
◇訪問介護事業所実地指導	令和5年 1月27日 (金)	

2. 事務局運営事業

関係機関及び団体との連携

◇第72回 山形県民福祉大会

令和4年 11月21日 (月) 会場：新庄市民文化会館

メインテーマ「住民が主体となり 誰もが心豊かに暮らせる 地域福祉の確立」

講演 「認知症が私たち家族にくれたギフト」

講師 映画監督・ノンフィクション作家 信友 直子 氏

・新庄市をはじめ、民生委員児童委員協議会、関係団体の皆様のご協力をいただき、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、成功裏に大会を終えることができた。

①行政(新庄市)との連携

- ・事業運営に関し、所轄庁としての助言・指導をいただいた。
- ・社会福祉協議会事業の情報の共有に努め、市の広報紙等に掲載協力をいただいた。

- ・社会福祉協議会運営費、老人福祉センター運営費の補助をいただいた。
- ・地域包括支援センター運営事業、要介護認定調査、放課後児童健全育成事業(日新・萩野・明倫・新庄)、地域活動組織育成支援事業、敬老会支援事業を委託事業として実施した。
- ・福祉サービス利用援助事業、貸付事業等の制度・サービスの運営における要援護者の支援を連携して行なった。

②区長協議会との連携

- ・社会福祉協議会の協力員として、常に市民の先頭に立ち地域福祉・高齢福祉事業及び共同募金事業などの普及活動や啓蒙、広報紙の配布、会費・募金の徴収等幅広くご協力をいただいた。

③民生委員児童委員協議会との連携

- ・社協の各種事業を進めるうえで、ニーズの把握や情報提供にご協力いただいた。
- ・生活福祉資金貸付事務事業では、低所得者世帯の更生を図るため、指導や意見、対象世帯の見守りにご協力いただいた。
- ・歳末たすけあい募金の配分実施では、対象世帯の調査及び配付のご協力をいただいた。

④県社会福祉協議会との連携

- ・生活福祉資金貸付事業・福祉サービス利用援助事業を委託事業として実施した。
- ・社会福祉関連事業を進める上で指導、意見をいただいた。

⑤関係諸団体との連携

- ・婦人会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、更生保護女性会、交通安全母の会やその他の関係諸団体と、共同募金活動等、各事業において連携とご協力をいただいた。

(事業効果等)

各機関、団体のご指導・ご協力により、円滑な社協事業の運営が図られた。

⑥地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に向けた取り組み

- ・令和2年度に策定した第3期地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画の推進状況について、年次評価(各事業の実施状況の把握、分析、評価等)を行なうため、検討会と推進委員会を開催した。

○検討会の開催

- ・日時：令和5年3月15日(水) 15:00～17:00

○推進委員会の開催

- ・日時：令和5年3月22日(水) 14:00～16:00

(事業効果等)

令和2年度に策定した第3期地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画における年次評価(各事業の実施状況の把握、分析、評価等)を行なうことで、検討会及び推進委員会において、令和4年度の取り組み状況を確認し、計画や数値目標等の見直しを行ない、福祉課題について共有することが出来た。

3. 会 費

会費の納入に理解を求めるとともに、納入の便宜を図るため金融機関（新庄信用金庫・新庄市農協・もがみ中央農協）での振込を促進した。

また、6月下旬の6日間の期間、市役所内で行なう各種会費等の集中受付に同席し、社協窓口を設け、納入の簡便化に努めた。

令和4年度実績額	前年度実績額	前年度比較	対前年比	振込利用件数
7,679,400円	7,736,100円	△56,700円	99.27%	14件

集中受付期間 6月20日～29日 期間中社協会費納付地区数 166町内

(課題等)

社協事業への理解や協力を求める為、ホームページや会議の場での情報提供、広報紙による周知を行なうことを継続する。

4. 実習生の受入れ

専門的な知識や実践力の高い人材の育成のため、将来の福祉を担う資格取得を目指す実習生の受入れを行なった。

(事務局)

【社会福祉士実習】

東北福祉大学 学生1名 受入れ期間 令和4年8月26日(金)～9月30日(金)

(訪問介護事業所)

【訪問介護実習】

東北文教大学短期大学部 学生 1名
受入れ期間 令和4年8月1日(月)～8月2日(火)

(事業効果等)

実習生を受け入れることで、将来の福祉を担う専門的な人材が育成されると共に、指導する担当者が専門職としての知識や技術の再確認を行なった。

5. 職員研修

各事業所が個々の専門職としての知識・技術を高めるための継続的な研修の他に、社会福祉協議会としての危機管理対策や職員育成のための研修を行なった。

○令和4年度第1回職員研修（兼訪問介護事業所10月例会）

日時：令和4年10月26日（水）13時30分～14時30分

場所：社協3階会議室

内容：困難事例へのアプローチ～多頭飼育問題の現状と対応について

講師：最上総合支庁保健福祉環境部保健企画課 浅黄里恵 氏

参加人数：15名

○令和4年度第2回職員研修（兼訪問介護事業所11月例会）

日時：令和4年11月15日（火）13時30分～15時

場所：社協3階会議室

内容：「運動と健康、ストレッチ」実技指導

講師：健康運動指導士 辻原吉子 氏

参加人数：18名

○令和4年度第3回職員研修

日時：令和4年12月6日（火）13時30分～15時

場所：社協3階会議室

内容：「交通安全講習会」

山形県内の事故状況について、危険感受性チェックシート、事例紹介など

講師：山形県火災共済協同組合 菅野祥生 氏、松田信人 氏

参加人数：23名

6. 各種表彰該当者の推薦

第72回山形県・県民福祉大会

日時：令和4年11月21日（月）

場所：新庄市民文化会館

社会福祉の分野で顕著な功績があった方に対し、その功を称え表彰状が贈られた。

《山形県共同募金会会長表彰》（敬称略・順不同）

奉仕功労者表彰 4名

大山 悦子 小松 和子 町田 宏 星川 征和

地区及び団体表彰 3団体

新庄信用金庫 新庄市農業協同組合 もがみ中央農業協同組合

7. 福祉教育の推進

学生からのボランティア活動の相談等を実施し、除雪ボランティアとして協力いただいたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募金活動や高齢者・児童施設でのボランティア活動は自粛した。

小学校の総合的な学習の時間において、福祉について学習する講座を開催し、福祉とは何か、身近にどんな福祉があるかを学び、児童一人一人が興味関心のある福祉分野について理解を深める機会を設けた。

明倫学園：令和4年 7月19日（火）受講者6年生（69名）

明倫学園：令和4年11月25日（金）受講者6年生（22名）

8. 福祉サービス利用援助事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

認知症の症状や知的障がい、精神障がい等によって必要な福祉サービスを自身の判断で適切に選択・利用することが難しい方を対象に、福祉サービスの利用手続きの援助を基本サービスとして、必要に応じて日常的な金銭管理の支援を行なった。

基幹的社協分最上管内利用件数 18件（前年度17件）

内、新規契約締結件数 5件、解約件数 4件

令和4年度相談件数 285件（前年度260件）

〈最上管内利用件数内訳〉

	新庄市	大蔵村
件数	18	0

(事業効果等)

福祉サービス等の利用援助やそれに伴う日常的金銭管理を実施することで、利用者が安心して在宅生活を営むことができた。

9. 生活福祉資金貸付事業（山形県社会福祉協議会委託事業）

低所得者世帯等の経済的自立と教育支援を図るため、貸付を実施した。滞納者に対しては、償還指導、相談援助を行なった。

〈令和4年度貸付内訳〉

資金種類	件数	貸付金額
福祉資金（転居・修繕・葬儀・運転免許）	4件	1,669,000円
緊急小口資金	1件	45,000円
緊急小口資金（特例）	10件	1,900,000円
総合支援貸付（特例）	4件	1,850,000円
教育支援資金（就学支度費・教育支援費）	5件	11,567,000円
合計	24件	17,031,000円

(事業効果等)

低所得世帯に対し、資金の貸付や相談支援等を行なうことにより、自活できると認められる世帯で、必要な資金を銀行等から借り受けることが困難な世帯に対し、担当民生委員と連携を図り、貸付や償還及び生活指導を行なった。

特例貸付の申請については、令和4年9月末で終了し、令和5年1月から順次償還が始まっている。新型コロナウイルス感染の影響で生活状況が改善されていない世帯に対し、償還猶予等の相談支援を行なった。

10. 地域活動組織育成支援事業（地域ふれあいサロン事業 市委託事業）

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと過ごすことができるよう、閉じこもり予防や介護予防を目的とした「地域ふれあいサロン」の活動や運営を支援した。

◇サロン活動の実施状況

	開催地区	実施回数（回）	参加人数（名）
1	下金沢地区	9	92
2	老人福祉センター周辺	15	156
3	泉田地区	7	83
4	本合海地区	22	129
5	金沢新町	12	72
6	あたご地区	7	59
7	本宮一区	16	136
8	泉田桜通り	1	4
9	野際団地	4	30
10	八向地区	16	148

1 1	西町地区	3	1 4
1 2	千門町地区	2 6	2 0 1
1 3	上西山地区	9	6 1
1 4	下仲町地区	6	4 3
1 5	柏木山	1 0	8 0
1 6	吉袋地区	1 0	1 5 2
1 7	上仲町	5	2 2
1 8	鳥越	2 9	3 2 9
1 9	栄町	4 3	4 3 3
2 0	滝の倉	8	4 4
2 1	梨の木	1 5	9 5
2 2	若葉東	0	9 4※会報配布のみ
2 3	小泉	4 6	4 4 0
2 4	下田町	1 5	1 0 8
2 5	上茶屋町	4 0	3 1 4
2 6	東山	1 0	1 0 3
2 7	中の川	2	8
	合 計	3 8 6	3, 4 5 0

(事業効果等)

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、解散した地区もあったが、開催回数、参加人数は昨年度より増えた。

◇地域ふれあいサロン交流会

地域ふれあいサロン交流会については、人数軽減等、新型コロナウイルス感染拡大予防を講じながら開催した。

日時：令和4年9月20日（火）

場所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室

参加：11地区のふれあいサロン計20名

11. 敬老会支援事業（市委託事業）

町内会等で開催される敬老会の行事に必要な経費の一部を助成した。

開催地区 9地区 参加者 602人

補助金額 170,476円

(事業効果等)

敬老会を支援することで、高齢者福祉の増進に寄与した。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、記念品の配布のみにとどめる地区が増えた。

1 2. 新庄市善意銀行事業

30,000円を限度に生活困窮世帯に貸付を行なった。

			令和4年度	前年度	対前年比 (%)
現 年 度	払出	件数	0件	0件	0
		金額	0円	0円	0
	貸付	件数	38件	26件	146.15
		金額	797,000円	562,000円	141.81
	未償還	件数	18件	8件	225
		金額	380,000円	143,000円	265.73
全 体	未償還	件数	22件	13件	169.23
		金額	427,000円	226,000円	188.94

(事業効果等)

生活費に不足が生じた世帯の相談に応じ、生活保護費や年金が入るまでに必要な生活費を貸付した。また、相談者と一緒に収入と支出を見直すことで、家計に関する助言・指導を行ない、生活自立支援センターもがみと共に自立に向けた支援を行なった。

〈参考〉貸付年度別未償還件数

年度	R1	R3	R4	合計
件数	1	3	18	22

◇フードバンクの提供

生活自立支援センター、行政等の関係機関と連携し、新庄市内の53世帯に食品を提供した。
(通常30世帯、歳末時23世帯)

※歳末たすけあい配分の該当世帯のうち、母子・父子世帯の23世帯に対し、共立社新庄生協からのフードドライブで寄贈いただいた食料品を提供した。

1 3. 放課後児童健全育成事業 (市委託事業)

市の委託を受け、市内4ヶ所の放課後児童クラブを運営した。

日新放課後児童クラブ (松本) 萩野放課後児童クラブ (萩野学園内)
新庄放課後児童クラブ (新庄小学校内) 明倫放課後児童クラブ (明倫学園内)

施設	職員数	年間開所 日数	定員	利用児童数 (名)				
				年間利用者数	年度当初	年度末	1日あたり 利用人数	1日あたり 利用人数 (土曜日除く)
日新	9名	288日	90名	16,705	89	86	58	68.1
萩野	4名	288日	40名	7,531	38	38	26.1	30.7
新庄	4名	288日	40名	7,184	40	38	24.9	29.5
明倫	5名	282日	60名	10,293	60	54	36.5	43.1

研修等 職員の資質向上のために以下の研修会に参加及び実施した。

○第1回最上地区放課後子ども総合プラン指導者研修会(オンライン研修)

「気になる子への対応と保護者支援」

期 日：令和4年6月22日(水)

場 所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

参加人数：19名

○第2回最上地区放課後子ども総合プラン指導者研修会

「放課後の子どもの学びと理解」

期 日：令和4年11月1日(火)

場 所：山形県神室少年自然の家

参加人数：16名

○「気になる子への対応と保護者支援」

講 師：新庄市子育て推進課 養護主任 須貝香央里 氏

期 日：令和4年7月12日(火)

場 所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

参加人数：19名

○「発達障がい疑われる児童への支援と専門機関との繋がり方」(オンライン研修)

講 師：山形県立こども医療療育センター

山形県発達障がい者支援センター

発達障がい相談主査 佐藤 緑 氏

期 日：令和4年10月6日(木)

場 所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

参加人数：18名

○放課後児童支援員認定資格研修

日 程：9/2、9/5、9/7～9、9/13～15(8日間)

場 所：鶴岡市朝暘武道館2階大会議室

受講者：3名

日 程：11/2、11/10、11/14、11/24、11/28、11/30、12/1(7日間)

場 所：山形県総合運動公園2階大会議室

受講者：3名

(事業効果等)

放課後児童クラブ全体として、擦り傷や打撲等の軽微な怪我の増加やアレルギー体質や服薬等、特別な支援が必要な児童が増えてきており、職員の負担が大きい状況となっていた。今年度は、各放課後児童クラブに職員を1名増員し、組織体制を強化することで入所児童が安全に生活できる環境を整えることができた。

(課題等)

日新放課後児童クラブについては、昨年度に屋根の防水シート及び遊戯室床張替等の大規模修繕を行ない環境整備が改善されたが、利用児童が多いことと、現在の建物は昭和50年に建てられた旧県立新庄農業高校の星芒寮を改修したもので、職員の目が行き届かない場所が多い。建物自体の老朽化が進んでおり、耐震についても不安があるため、市と協議していく。

2019年4月から労働基準法が改正され、年休を10日以上付与する職員については年5日の年休を取得することが義務となっているが、年休対応の時間制臨時職員が不足しているため、人手が足りない場合は事務局職員やシルバー人材センターの会員で対応した。

事務局職員が放課後児童クラブの総務及び会計全般を行なっているが、委託料には事務局職員1名分の人件費65%（各放課後児童クラブより1/4ずつ予算計上）が含まれている。社会福祉協議会事務局として見合った適正な委託料なのか、事務局職員1名分の人件費全額を認めてもらえないのか、市と協議していく。また、放課後児童クラブの職員増により、「法定雇用率達成のために雇入れが必要な障害者数が1人」となり、障害者雇用についても市と協議していく。

1.4. 連絡調整育成指導事業

下記の団体に補助金を交付した。

団体名	内容等	金額(円)
新庄市戦没者遺族会	戦没者遺族会活動事業への支援 (市補助金243,000円)	243,000
新庄市民生委員児童委員協議会	調査協力費の交付	56,000
新庄市更生保護女性会	青少年非行防止等事業への助成	43,000

(事業効果等)

上記団体の事業推進に支援した。



がついている事業は共同募金の配分金で実施している事業です。

1.5. 企画・広報・情報事業（共同募金配分金事業）

(1) 広報紙「社協だより」の発行

◇第48号	令和4年	7月発行	全戸配布
◇第49号	令和4年	11月発行	全戸配布
◇第50号	令和5年	3月発行	全戸配布

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業内容や福祉情報、地域福祉活動を幅広く掲載し、市民の地域福祉活動への関心をより高めるとともに、各種情報の提供を行なった。

(2) ホームページ・フェイスブック・インスタグラムの運営

(事業効果等)

社会福祉協議会の事業や活動について、ホームページ・フェイスブックを媒体とすることで、研修会や義援金の案内、ボランティア活動の報告など、よりタイムリーに市民の皆様へ情報を発信し、広報を強化することが出来た。

また、若い世代への情報発信を強化するため12月よりインスタグラムの立ち上げ、より多くの媒体で情報提供が出来るよう体制を整備した。



16. 助成金事業（共同募金配分金事業）

下記の団体との協働を図り、その活動を援助するため負担金等の助成をした。

事業実施福祉団体	内 容 等	金額（円）
社会を明るくする運動推進委員会	少年犯罪・非行の防止、更生援助への支援	28,000
新庄市身体障害者福祉協会	ストレッチ講習会への支援	28,000
新庄建築大工組合	生活困窮世帯等の住宅環境を整備するための修繕経費の助成	38,175

（事業効果等）上記の団体に助成し、事業推進を図った。

17. 社会福祉協議会表彰等事業（共同募金配分金事業）

（1）社会福祉協議会表彰

期日：令和5年3月3日（金） 場所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

社会福祉事業に多大な貢献のあった個人・団体に対し、その功を称え表彰を行なった。

◇ 会長表彰受賞者 2名

《一般社会福祉事業関係功労者》

工藤宗次郎 （新庄市身体障害者福祉協会役員）

西塚ツエ子 （新庄市更生保護女性会会員）

◇ 会長感謝状 4名、2団体

《社会福祉事業協助・奉仕者》

天口 初子 押切あき子 佐藤 弘子 渡部 恵司

新庄市更生保護女性会 新庄市交通安全母の会

（敬称略・順不同）

（事業効果等）顕彰により更なる研鑽・貢献が期待できた。

（2）敬老祝い品の贈呈

長寿の方々に会長の祝詞を添え、祝い品の贈呈を行ないました。

白寿対象者 31名（男 4名 女 27名）

米寿対象者 267名（男 97名 女 170名）

（事業効果等）

祝い品の贈呈により、長寿の方への尊敬・感謝の想いを示した。

共同募金配分金を原資として、長年、米寿及び白寿の祝い品の贈呈を行なってきたが、対象人数が増加していること、共同募金配分金の収益が減少していること、社会福祉協議会で実施している共同募金配分金事業の約33%を占めていることを鑑み、次年度については事業の見直しを行なう。

18. 心配ごと相談事業（共同募金配分金事業）

◇弁護士相談 新庄ひまわり基金法律事務所 浅沼 敬弁護士

毎月第3週木曜日（午後1時30分～午後4時）

◇一般相談（社協職員対応） 平日（午前8時30分～午後5時15分）

相談内容	弁護士相談	相談内容	一般相談
借金・多重債務	8件	生 計	58件
離 婚	7件	高齢者・介護	4件
遺言・相続	13件	障 が い	3件
近隣トラブル	3件	除 雪	0件
財産・不動産	10件	新型コロナ関連	22件
事 故	3件	そ の 他	30件
労 働	0件		
消 費 者	0件		
苦 情	1件		
そ の 他	5件		
合 計	50件	合 計	117件

（事業効果等）

弁護士相談において、離婚、相続、借金等の相談に対し、法的な観点から問題解決に向けた助言や適切な方向性についてのアドバイスを行なった。

一般相談では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活困窮に陥っている世帯の相談が多く、行政、生活自立支援センターもがみ、民生委員児童委員、山形県社会福祉協議会等と連携して、迅速な支援を行なうことができた。

19. 援護事業（共同募金配分金事業）

災害被災者・交通遺児への支援

- ・市内の火災等の災害に遭われた世帯に対し見舞金等を支給している。
- ・市環境課のご協力をいただき、小学生から高校生までの交通遺児に激励金を支給している。

	対 象 世 帯	金 額 (円)
災 害 見 舞 金	0	0
交 通 遺 児 激 励 金	0	0

（事業効果等）

実績なし。

20. 児童遊び場整備事業（共同募金配分金事業）

地域で管理している児童遊園の遊具の修繕費用や保全に必要な原材料の給付を行なった。

	申請地区数	総事業費 (円)	地元負担金 (円)	交付金額 (円)
遊具の修繕	5地区	314,896	31,554	283,342
		長坂、蛇塚・上野、黒沢、柏木山、宮内新町		

原材料支給等	14地区	196,450	—	196,450
		赤坂・本宮二区・市野々・横根山・二枚橋・福田・野中 升形上二区・昭和三・大谷地・往還・清水・黒沢・萩野二		

(事業効果等)

区長と連携し、子ども達が安全に遊べるよう地域の遊び場の保全に協力できた。

21. 高齢者健康対策振興事業（共同募金配分金事業）

会長杯ワナゲ大会の開催

参加人数の制限、消毒、換気等の新型コロナウイルス感染症予防対策を講じて開催した。
ワナゲをきっかけにして、高齢者の健康増進と運動能力の開発、仲間づくりにつながった。

期日：令和4年9月6日(火) 場所：市体育館

参加人数：延72名 12チーム

22. 愛のひと声運動事業（共同募金配分金事業）

配達日 毎週月・水・金曜日

利用者 31名 延回数 3,719回

(事業効果等)

市内の乳酸飲料業者と連携し、ひとり暮らしの高齢者を対象に乳酸飲料を配付しながら、
声かけや安否確認することで、住み慣れた地域での安心した生活を支援することができた。

23. 高齢者世帯等除雪支援事業（共同募金配分金事業）

ボランティアの協力により、他から除雪に係る作業的・金銭的支援を受けられない高齢者
世帯の自宅の玄関前と軒先の除雪を支援した。

実施回数：17回（15世帯）

活動団体数：11団体4個人

参加人数：ボランティア延べ123名、職員延べ17名

24. ボランティア活動推進事業（共同募金配分金事業）

- ・ボランティアセンターとして、情報提供や活動場所との調整を行った。
- ・ボランティア活動保険の加入業務を行ない、ボランティア団体の把握に努めた。

(1) ボランティア講座の開催「地域支えあいサポーター講座」

講義内容：1. 「どうして“いま”支えあいが必要なのか？」

講師 新庄市社会福祉協議会 小野 綾乃

2. 「適齢期に大事な“つながり”」

講師 新庄市地域包括支援センター

生活支援コーディネーター 大場 夕希

3. 「近年の消費生活トラブルについて」

講師 最上消費生活センター 長澤 要一 氏

日 時：令和4年9月27日(火)

場 所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室

参 加：10名

(2) 災害ボランティア

置賜地区の豪雨災害によりボランティアセンター運営の協力のため、職員派遣、ボランティア活動を行なった。

- ・職員派遣 場所：川西町
期日：令和4年8月 9日(火) 2名
16日(火) 2名
18日(木) 2名
19日(金) 1名
- ・福祉バスを活用してボランティア活動
場所：川西町
期日：令和4年8月19日(金) 7名

市で実施した防災訓練にボランティアセンターの運営として職員参加

- 場 所：升形児童館前
- 期 日：令和4年10月16日(日)
- 参加人数：5名

(3) ボランティア団体との協働

- ・大工ボランティア：新庄建築大工組合のご協力により、低所得高齢者3世帯の老朽化した家屋の軽微な修繕を実施した。
- ・チョキボラ：訪問理美容ボランティアのご協力により、外出困難な高齢者等へ理髪することにより、福祉向上を図ることができた。 18件

25. 元気・ハツラツ予防体操事業（共同募金配分金事業）

高齢者の方々が生きがいを見つけ、いつまでも自分らしく健康で生活ができるよう、運動機能の向上を目的として介護予防体操を実施した。

- 開催日時・場所：①毎月第1金曜日 13時～14時 社会福祉協議会2階
- ②毎月第2金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室
- ③毎月第3金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室

参加人数：362名

実施回数：27回（全33回中、コロナ感染予防対策のため6回中止）

- 講師：公益社団法人山形県柔道整復師会
植木 俊和 氏（植木接骨院）
早坂 耐希 氏（早坂整骨院）
加藤 修 氏（かとう整骨院）

（事業効果等）

老人福祉センターの参加者が多く室内が密集してしまうため、コロナ感染予防対策として、第2金曜日の日程を追加し利用者を分散させて予防体操を実施した。

また、市内の感染状況に応じて開催を中止としたが、中止期間中は、講師から配布されたテキストを活用し、心身が衰えた状態にならないよう自宅でストレッチや筋トレをしていただくことで、身体機能を維持することができた。

26. シニアタブレット教室（共同募金 地域福祉・在宅福祉事業配分）

シニア世代が趣味活動やコミュニケーションツールの活用を通して生きがいを創出し、生活に役立つ情報を得られるようになることを目的に、連続4回にわたるシニアタブレット教室を開催した。

開催日時：①令和4年11月 1日（火）9時30分～11時30分

②令和4年11月 8日（火）9時30分～11時30分

③令和4年11月15日（火）9時30分～11時30分

④令和4年11月22日（火）9時30分～11時30分

開催場所：新庄市社会福祉協議会 3階会議室

参加定員：10名

参加人数：延べ38名

講師：株式会社メビウス・ネットコム 代表取締役 沼澤聰子氏

（事業効果等）

シニア世代向けに分かりやすくタブレットの基本操作、インターネットやアプリの活用など実践的な指導を行い、受講者が情報機器を活用できるようになった。

平成30年度から事業を実施してきたが、民間事業者等でタブレットを教えるところが増えてきたため、受講者が減少していることから、令和4年度で事業を終了する。

【老人福祉センター運営事業】

1. 老人福祉センター施設管理事業

高齢者のふれあい、生きがいつくりの場として、より多くの方々にご利用いただけるよう運営に努めた。

◇避難訓練及び防火設備の点検

避難訓練や非常用ベル等の点検を実施し、利用者の安全確保に努めた。

（1）老人福祉センター利用状況

		令和4年度	前年度	対前年比 (%)
開館日数		303 日	303 日	—
利用者	延べ人数	7,120 人	7,093 人	100.38
	団体数	805 団体	713 団体	112.9
	1日の平均利用者数	23.5 人	23.4 人	100.43

（2） 文化教室別利用状況（社協主催事業 共同募金配分事業）

文化教室種類	令和4年度 (人)	前年度 (人)	対前年比 (%)
生け花教室	110	144	76.39
けん玉教室	122	—	—
スポーツ吹矢教室	—	120	—
合計	232	264	87.88

※けん玉教室については新規事業、スポーツ吹矢教室は前年度で終了。

(3) 備品等借用

市内の団体及び個人に対し、以下の備品の貸し出しを行ないました。

備品等	件数
車椅子	20件
高齢者疑似体験スーツ	3件
ワナゲ用具	2件
テント(共同募金配分で購入)	0件
綿菓子製造機	0件
ポップコーン製造機	0件

2. 老人福祉センター施設設備事業

1階女子トイレ及び2階男子トイレのタイル壁補修工事 153,670円

(事業効果等)

昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、検温、マスク着用、換気対策を徹底した。令和5年3月13日以降についてはマスクの着用を推奨し、カラオケルームの人数制限を解除した。

全体的に利用者及び利用団体数については、昨年度と比較してほぼ同じ推移となった。

(課題等)

老人福祉センターについては、築後47年が経過し、全体的に劣化が進んでいる。既に入浴施設を休止している状況にあり、耐震診断も行なっておらず、施設を安全かつ快適に利用するには、多額の費用を要すると考えられる。建設時に新庄市独自で建設するよりも社会福祉法人等の民間団体で建設するほうが日本自転車振興会等からの補助金が受けられるとの理由から、本来、行政が建てるべき施設であったが、本会名義で建てられたものである。運営費については、市が全額負担するという当時の経緯があったが、平成13年度までの運営費の市補助率は90%、平成17年度が30%、平成18年度から平成25年度までは40%、平成26年度から令和4年度までは70%であった。不足分は社協会費や寄附金、本会の介護保険収入で補填してきたが、介護保険収入の減少等により、社協の財政上の負担が大きくなり、令和6年度からの運営は困難であるため、令和6年3月末日をもって廃止の方向性で市と協議していく。

【共同募金事業】

山形県共同募金会新庄市共同募金委員会と連携し、区長をはじめ多くの市民・団体等のご協力を得て募金活動を推進した。

1. 赤い羽根共同募金

〈募金内訳〉

	令和4年度 (円)	前年度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	3,773,750	3,844,700	98.15
企業募金 (会社・商店489、個人3)	1,755,457	1,791,455	97.99
街頭募金 (6団体)	50,205	34,863	144.01
学校募金 (市内10校)	132,462	147,755	89.65
職域募金 (18カ所)	48,118	56,951	84.49
篤志募金 (市民有志等)	130,083	137,647	94.5
合計	5,890,075	6,013,371	97.95

※企業募金にご協力いただいた会社・商店については、令和5年3月発行の「社協だより」第50号に掲載した。

〈配分内容〉

配分先	<ul style="list-style-type: none"> ○こども食堂等運営事業(3箇所) 特定非営利活動法人福祉サポートセンター山形、わたしたちの暮らしプロジェクト、特定非営利活動法人オープンハウスこんぺいとう ○福祉車両整備事業(2箇所) 社会福祉法人最上梅檀会双葉荘、特定非営利活動法人すぎのこハウス指定障がい福祉サービス事業所かねやまハウス ○地域福祉事業 新庄市社会福祉協議会
社協配分事業	老人福祉センター文化教室、愛のひと声運動事業、高齢者世帯除雪支援事業、助成金事業、児童遊び場整備事業、社会福祉協議会会長表彰、白寿・米寿祝い品贈呈、心配ごと相談事業、援護事業、ボランティア活動推進事業、ワナゲ大会の開催、広報紙の発行、ホームページの運営、元気・ハツラツ予防体操、シニアタブレット教室

(事業効果等) 募金の配分金を福祉施設の整備や地域福祉事業に活用し、地域への還元を図った。

〈参考〉

街頭募金協力団体	沼田学区婦人会、新庄市身体障害者福祉協会、新庄市更生保護女性会、山形県社会福祉士会最上支部、新庄市交通安全母の会、あじさいウォーキング
街頭募金活動場所 活動場所提供協力	ヨークベニマル新庄店、ヨークベニマル新庄下田店、ヤマザワ新庄宮内店、マックスバリュ新庄店、ビッグフレック新庄店
学校募金協力校	新庄小学校、日新小学校、升形小学校、萩野学園、明倫学園、日新中学校、八向中学校、新庄南高等学校、新庄神室産業高等学校、新庄東高等学校
職場募金 (募金協力)	新庄市役所、新庄市体育協会、最上広域市町村圏事務組合
職場募金 (募金箱設置協力)	新庄市役所市民相談室、新庄最上地域シルバー人材センター、もがみ物産館、マックスバリュ新庄店、よつば調剤薬局宮内店、セブンイレブン新庄新町店、産直まゆの郷、新庄市身体障害者福祉協会(県立病院売店、合同庁舎売店)、ファミリーマート新庄千門町店、マルシェゴーノメ新庄店、JA産直いなふね、(株)柿本商店、ダイユーエイト(株)新庄西店、新庄市老人福祉センター、新庄市社会福祉協議会
篤志募金	石山宣助、あじさいウォーキング、匿名9名

(順不同・敬称略)

2. 歳末たすけあい募金

(1) 募金活動

〈募金内訳〉

	令和4年度 (円)	前年度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	1,881,150	1,917,450	98.11
篤志募金 (市民有志等)	10,000	0	—
合計	1,891,150	1,917,450	98.63

(2) 歳末たすけあい運動

共同募金運動の一環として、市民の皆様からお預かりした歳末たすけあい募金について、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう配分委員会を開催し、効果的に配分した。

〈配分内訳〉

世帯区分	対象世帯数 (世帯)	配分金額 (円)
準生活保護世帯	7	126,000
高齢者世帯	53	954,000
母子・父子世帯	23	414,000
障がい者世帯	6	108,000
入院・入所世帯	1	18,000
その他困窮世帯	2	36,000
合計	92	1,656,000

・配分額 現金18,000円×92世帯=1,656,000円

・地域福祉活動費として179,150円 新庄市共同募金委員会事務費として56,000円

(事業効果等)

配分金は民生委員児童委員や関係機関と協力を得て、効率的に調査・配分することができた。

【介護等支援事業】

1. 介護支援事業 (もみの木介護支援事業所)

介護支援専門員 5名

介護を必要とされている方が自宅で適切にサービスを利用できるように、介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプランを作成し、医療機関、サービスを提供する事業所等との連絡・調整を行なった。

		令和4年度	前年度	対前年比 (%)
要介護	件数	1,558件	1,628件	95.7
	収入	24,838,100円	25,821,450円	96.19
要支援・事業対象	件数	431件	508件	84.84
	収入	1,789,940円	2,116,020円	84.59

認定調査	件数	154件	170件	90.59
	収入	508,200円	561,000円	90.59
合計	収入	27,136,240円	28,498,470円	95.22

(課題等)

- ・介護支援専門員が6名より5名となり件数や収入は減少しているが、一人当たりの担当件数が増加した。
- ・令和4年度の要介護契約者73名(前年度67名)、要支援・事業対象者14名(前年度22名)。引き続き今年度も本来の居宅介護支援事業である要介護の利用者を増やしていきたい。
- ・介護保険施設や小規模多機能型、グループホームなど施設入所しやすい状況であるが、適切な介助を受けて慣れた自宅で生活できるように支援していく。

2. 訪問介護事業(もみの木訪問介護事業所)

介護福祉士 6名

ホームヘルパー2級 13名

(令和5年3月31日現在)

自分や家族だけで日常生活を営むことが難しくなった要介護者に対して、介護福祉士やヘルパーの資格を持った介護員が自宅に赴き、入浴、排泄、食事等の身体介護、掃除、洗濯、調理等の生活援助、通院時の外出移動サポート等の日常生活上のお世話を行なうと共に、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、居宅介護支援事業所等と連携し業務を推進した。

		令和4年度	前年度	対前年比(%)
訪問介護事業	件数	773件	753件	102.66
	収入	33,078,645円	34,519,404円	95.83
障害者自立支援事業	件数	120件	89件	134.83
	収入	5,665,937円	8,579,300円	66.04
ひまわり介護サービス事業	件数	86件	90件	95.56
	収入	673,070円	675,175円	99.69
福祉有償運送サービス事業	件数	271件	9件	3,011.11
	収入	96,540円	3,090円	3,124.27
合計	収入	39,514,192円	43,776,969円	90.26

(事業効果・課題等)

- ・新型コロナウイルスの感染が広がる中、介護職員による消毒、換気などの基本的な感染対策と定期的な抗原検査により感染を予防し、訪問介護事業を継続することが出来た。
- ・訪問介護事業は、毎年、収入額が減少しており、減収をいかに抑えるかが課題となっていた。その対策として、新規ケース受付体制と苦情対応に関する管理を見直し、他事業所への営業活動を強化したことで訪問件数は微増となった。今後は収入増に結びつけていきたい。
- ・より多くの介護職員が、介護知識や介護技術を学べるよう、月例会における研修を月3回実施し、職員の資質向上を図った。研修会の内容は、SNS(フェイスブック、インスタグラム)へ画像・動画投稿することで、もみの木訪問介護事業所の広報に繋がった。
- ・福祉有償運送サービス事業は、サービス提供体制の整備、有償運送運転資格者の育成、車椅

子を積載できる福祉車両の導入により、対前年比3124.27%の増加となった。今後も訪問介護との一体的なサービス提供で包括的に在宅生活を支援すると共に、訪問介護利用のきっかけとなるようケアマネジャーなどへ周知を図っていく。

・介護職員処遇加算、ベースアップ加算（介護・障害）の要件を取得できるよう事業所の体制を整備し、利用者に直接介護サービスを提供する介護職員の処遇改善を図ることにより、介護職員の離職の防止に繋げた。

【地域包括支援センター運営事業】

1. 地域包括支援センター事業 主任介護支援専門員2名、保健師1名、社会福祉士4名、生活支援コーディネーター1名、事務員1名、認知症地域支援推進員1名(保健師1名が兼務)

○総合相談事業

①総合相談

高齢者等に関する様々な相談を受け止め、包括の専門職が連携し、適切な制度やサービス、関係機関に繋げ、継続的に支援することができた。また、地域の関係機関や事業所、民生委員等の関係者とのネットワークを構築できた。

総合相談事業		令和4年度	前年度	対前年比 (%)
相談件数	総合相談	8,367件	8,025件	104.26
	内介護相談	2,086件	2,257件	92.42

②地域におけるネットワーク構築

- ・県立新庄病院入退院支援研修会（6月28日）：包括業務や介護保険制度の説明、事例検討等
- ・新庄市第4区民生委員児童委員協議会（7月13日）：包括業務や介護保険制度の説明等
- ・地域介護力向上サポート（青年会議所主催の市民セミナー）（10月15日）：助言者として参加

○権利擁護事業

複合的な課題を抱え、介護サービスだけでは課題解決できない世帯や適切な制度やサービスに繋がらない困難な状況にある世帯が尊厳のある生活ができるよう、専門的・継続的な視点からの支援を実施した。高齢者虐待、成年後見制度、消費者被害、経済的困窮等の相談に対しては、行政、サービス事業所、民生委員、医療機関、生活自立支援センター等の関係者と連携して対応した。

○包括的・継続的ケアマネジメント

①介護支援専門員資質向上連絡会の開催

介護支援専門員の実践力向上やネットワーク構築のための研修会、情報交換会を開催した。

場所：新庄市社会福祉協議会 開催回数：6回（オンライン） 参加延人数：144名

<内容>

第1回：通いの場について

第2回：障がい福祉サービスと介護保険サービスの関連性

第3回：高齢者虐待防止法について

第4回：在宅医療とケアマネジメントについて

第5回：失語症について（適切なアセスメントのためのコミュニケーション方法）

第6回：今年度を振り返る座談会と来年度の企画

②介護支援専門員への個別援助

介護支援専門員へ必要に応じて同行訪問等のサポートを実施した。困難事例については、同行訪問や関係機関との連携を支援した。

- ・相談件数：65件

○自立支援型新庄市地域ケア会議の開催

居宅介護支援事業所より支援している事例を提供いただき、多専門職種が協働し、個別ケースの課題や支援内容を検討し、課題解決を支援した。外部助言者からの専門的な助言を受け、自立支援につながるケアマネジメントの実践力向上や関係者間のネットワーク構築を図った。

開催回数：12回（第3水曜日） 検討ケース：27ケース 参加者：234名

参加者：新庄市、包括、居宅介護支援事業所、サービス事業所、外部助言者（薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、主任介護支援専門員）

○研修会・イベント等の開催

①市民向け成年後見制度研修会

成年後見制度制度についての周知を図り、正しい知識を身に付けてもらうことを目的に、Q&A形式で制度の疑問を解消するなど、分かりやすい内容で開催した。

- ・日時：令和5年2月22日（水）14時～15時30分
- ・場所：ゆめりあ会議室
- ・参加人数：15名
- ・講師：新庄ひまわり基金法律事務所 浅沼 敬 氏

②認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守り支える認知症サポーターを養成した。

- ・対象：郵便局員（オンライン）、一般市民（ゆめりあ会議室）
- ・開催回数：2回
- ・養成人数：41名 ※令和4年度はコロナ感染拡大の影響で小中学校の開催は無し。

③認知症サポータースキルアップ研修会

認知症サポーター養成講座を修了した方を対象に、認知症についての知識を深め、地域で認知症の人やその家族を支援するために必要な知識を身に付けるための講座を開催した。

- ・日 時：令和5年3月9日（木）14時～15時30分
- ・場 所：ゆめりあ会議室
- ・講 師：PFCJAPANCLINIC 新庄（健康長寿医療センター長）山口 智 氏
- ・参加人数：18名
- ・テ ー マ：認知症についての理解を深める（病気について医学的な立場からの専門的な講義）

④オレンジカフェ（認知症カフェ）

気軽な雰囲気の中で認知症について学んだり、ミニ講話やレクリエーションを行いながら交流できる場所として開催した。

- ・場所 ひと休みいっぷく 開催回数：12回、参加人数：106名
社会福祉協議会2階 開催回数：3回、参加人数：35名

⑤いきいき百歳体操（筋力運動）・かみかみ百歳体操（口腔体操）

高齢者の社会参加と健康寿命の延伸を目的として、通いの場の立ち上げ支援を実施した。

※萩野地区公民館における通いの場として、令和5年1月12日から百歳体操を開始した。

No.	開催場所	開催日（曜日）	開催回数（回）	参加延べ人数（名）
1	老人福祉センター	毎週 月・木	92	868
2	新庄市体育館	毎週 月・木	86	913
3	萩野地区公民館	毎週 木	10	125
計			188	1,906

⑥オレンジ市場の開催

新たな取り組みとして、「元気ハツラツ予防体操」、「障がい者サービス事業所の物品販売」、「包括センターのオレンジカフェ（認知症カフェ）」を一体的に開催する「オレンジ市場」を社協の2階で試験的に開催した。好評につき、来年度も開催していく方向性となった。

⑦社会資源調査

新庄市内の社会資源（介護保険外の移送サービス、配食サービス等）を調査した。調査結果を冊子化し、各居宅介護支援事業所へ提供し、相談支援の際に有効に活用していただいた。

（事業効果等）

保健師1名が産休となり、募集をしたが応募がなく、1名減の状態で開催した。今後は、保健師の確保が課題であり、新庄市からの出向など行政からのバックアップが必要である。人材不足であったが、三専門職（社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員）が各専門性を活かし、関係機関と連携し、包括的な相談支援を実施できた。複合的な課題を抱えた困難事例に対しても各専門職が意見を出し合って対応できた。また、コロナ禍ではあったが、研修会やイベントを通常通り開催できた。今年度は、新たにオレンジ市場の開催や社会資源（介護保険外サービス）を冊子化することができた。

2. 介護予防支援事業（もみの木介護予防支援事業所）

介護保険における要支援者及び介護予防・日常生活総合事業における事業対象者に対して、心身の状況や置かれている環境に応じた適切なケアマネジメントを実施し、介護予防サービスの利用を支援した。

介護予防ケアマネジメント	令和4年度	前年度	対前年比（%）
総件数	4,434件	4,424件	100.23
内センター作成分	1,365件	1,291件	105.73
委託件数	3,069件	3,133件	97.96
収入金額	20,233,680円	20,118,300円	100.57
委託費支出金額	12,744,820円	12,913,450円	98.69

（事業効果等）

職員1名減の状態であったため、業務にかかる負担が大きかったが、全体のケアマネジメント件数は、昨年度と同等の作成件数を維持できた。居宅介護支援事業所に委託するケースが多く、委託可能な事業所の選定や連絡調整に苦労したが、適正なケアマネジメントとなるよう、各事業所へ適切な指導を行なうことができた。